# **91 - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |**

### 人間工学 花子<sup>2</sup>, 赤坂 太郎<sup>3</sup>

1	1	は	١*	丛	ı —
1	1.	lЬ	L	נא	۰.

- 2 総説は、ある問題に対する最近の学術的・技術的
- 3 知見や成果を,歴史的背景,重要性,進捗状況,将
- 4 来の方向等を踏まえつつ、総合的に論述したものと
- 5 する. 著者の原著報告であってはならないが、著者
- 6 の業績を中心に述べることは差しつかえない. 原則
- 7 刷り上がり6ページ以内とする. 和文・英文抄録は
- 8 付けない.
- 9 原稿は簡潔にして要を得たものとし、専門を異に
- 10 する読者にも趣旨が理解される表現に留意する. ま
- 11 た、書籍・雑誌などの図表を引用するときは、必ず
- 12 出典を明記する. 個人を特定できる写真を使用する
- 13 際には、当該者に肖像権の承諾を得た旨を図のキャ
- 14 プションに明記すること.
- 15 英文タイトルの大文字・小文字の使い方(キャピ
- 16 タライゼーション・ルール)は、原則、各単語の頭
- 17 文字を大文字にする. ただし, 冠詞 (a, the), 接続
- 18 詞 (and, or, but, not, for, if, while, since など), 前
- 19 置詞や不定詞(at, to など)は頭文字を小文字にする.
- 20 英文氏名については、姓(Family name)のみ大文字
- 21 で記載する.

23 2. 方 法

22

28

29

31

## 24 2-1. 投稿原稿の様式

25 **1) 投稿用ウェブサイト**: 原稿の種類, 和・英の題 26 目, 著者名とそのローマ字表記, 所属団体とそ

 26
 目, 者者名とそのローマ子表記,所属団体と

 27

30 1 受付:\*\*\*\*年\*月\*\*日 受理:\*\*\*\*年\*\*月\*\*日

2 人間工学大学人間工学学部 Ningenkougaku University, School of Ergonomics 3 株式会社マーゴ ドクフ

3 株式会社アーゴノミクス Ergonomics Co. Ltd.

- 32 の英語名称および連絡先,原稿枚数,別刷部数
- 33 等を記入する.この他,原稿内容のチェックを
- 34 行う. 郵送の場合は、投稿用紙は各号に綴じ込
- 35 まれた最新のものをコピーして使用するか、も
- 36 しくは本学会のホームページから最新版を取得
- 37 する. 原稿は原則として本テンプレートを利用
- 38 し作成すること.

39

#### 40 3. 結 果

#### 41 3-1. 図表の作り方

- 42 図表番号は、それぞれ Fig. 1、Fig. 2、... Tab. 1、Tab.
- 43 2, …とし, 和文, 英文の説明をつける. 図題・表題
- 44 に用いる英語は冒頭のみ大文字,以降は原則として
- 45 小文字を使用する. 図表の寸法は, 片段横寸法(段
- 46 組1段分) または段抜き横寸法(段組2段分) のい
- 47 ずれかで作成すること.
- 48 図表で用いる数字の有効桁数は適切に記載するこ
- 49 と. また、モノクロ印刷においても識別できるよう
- 50 に、写真のコントラストや図の凡例は適切に作成す
- 51 ること、なお、カラー印刷を希望する場合には、別
- 52 途費用を請求する.

53

#### 54 3-2. 論文で用いる単位系

- 55 用字・用語については、現代かなづかいとする.
- 56 アラビア数字を使い, 原則として SI 単位系 (m, kg,
- 57 s, A など) を用いる. (心拍数, 血圧など SI 単位系
- 58 以外の単位が慣例となっている場合を除く.)

59

#### 60 4. 考察

#### 61 4-1. 著者校正について

- 1 校正は原則として初校のみ著者が行い、初校以降
- 2 は編集委員会に一任する. また, 校正の段階で論文
- 3 内容の大幅な変更や著者の追加などは原則として行
- 4 えない.

#### 5 4-2. 査読の評価基準について

- 総説論文を本学会では「ある問題に対する最近の
- 7 学術的・技術的知見や成果を, 歴史的背景, 重要性,
- 8 進捗状況,将来の方向等を踏まえつつ,総合的に論
- 9 述したものとする. 著者の原著報告であってはなら
- 10 ない. 但し著者の業績を中心に述べることは差しつ
- 11 かえない」と位置づけており、下記の基準で主査・
- 12 副査は論文の評価を行う.

13

- 14 [新規性]: 下記の 1)~3)のうち, 1 つが満たされて
- 15 いること.
- 16 1) 新しい発見または知見の提示
- 17 2) 新しい理論, 方法論, 手法, 評価方法等の提案
- 18 3) 新しい問題領域や問題設定の提案

19

- 20 [有用性]: 下記の 1)~3)のうち, 1つが満たされて
- 21 いること.
- **22** 1) 研究および設計・開発を有効に支援するデータの
- 23提示
- 24 2) 学術的, 社会的ニーズに対する問題解決法, 評価
- 25 法,対策の提示・提案
- 26 3) 既存の知見や理論および方法の体系化

27

- 28 [客観性]:下記の全てが満たされていること.
- 29 1) 記述内容に誤りや矛盾がなく、記述が分かりやす
- 30 く,論旨の展開が明確であること.
- 31 2) 研究目的が分かりやすく明確に記述されている
- 32
- 33 3) 実験や調査が含まれている論文においては、実験
- 34 条件や調査方法が分かりやすく明確に記述されて
- 35 おり、信頼性を有すること.
- 36 4) 結果, 結論が知見として明確に示されていること.
- 37 5) 関連する文献等を適切に引用し、従来研究との関
- 連が明確であること. 38

39

#### 40 5. おわりに

- このテンプレートでは, 段組の左欄に行数を表示 41
- 42 する「行番号の表示」設定をしてある. 査読コメン
- 43 トで使用するため、表示しておくこと(設定方法は
- 44 p.4 参照). なお, 採択論文が学会誌へ掲載される際

45 には、印刷所にて組版を行うため、本テンプレート

の頁数と掲載時の頁数が異なる場合がある.

47 48

#### 49 利益相反

総説では原則として利益相反に関する記述は不要 50

51 である.

52 53

54<参考: 査読のブラインド方式について>

人間工学誌の査読では、長らくダブルブランドの 55

56 査読方式(著者には主査・副査名を知らせないとと

57もに副査にも当該論文の著者名を知らせない状態で

58 査読を行う方式)を採用してきたが、今日の学術動

59 向に鑑みシングルブラインドの査読方式(著者名を

60 主査・副査に開示する方式)で運営することとなっ

61 た. 著者情報を本文に明示した形で論文原稿を作成

62 のこと.

63

#### 64 謝辞

謝辞はここに書く. 65

66

#### 67 参考文献

68 本文中には、引用個所の右肩に文献の番号を記載

69 し、本文末尾に出現順にまとめて記載する. 書誌情

報は誤りのないように記載すること. 形式は以下の 70

例示のとおりとする. 71

72

73 <論文・雑誌の場合>

741) 大須賀美恵子,青木和夫,他:座談会-ネットで 75 語る人間工学の来し方行く先一,人間工学,50(1),

76 1-10, 2014

772) Dul J, Bruder R, et al: A strategy for human

78 factors/ergonomics: developing the discipline and

79 profession, Ergonomics, 55(4), 377-395, 2012, doi:

80 10.1080/00140139.2012.741716.

81 3) VanDieen JH, Oude Vrielink HH: The use of the 82 relation between relative force and endurance time,

83 Ergonomics, 37(2), 231-243, 1994

84 4) Sabatini AM: Quaternion-based extended Kalman

85 filter for determining orientation by inertial and 86

magnetic sensing, IEEE transactions on Biomedical

87 Engineering, 53(7), 1346-1356, 2006

88

89 \*巻・号は略記に、学会誌名は略記ではなく正式

90 名称を記載すること、雑誌名の各単語の最初は

- 1 大文字にすること. ただし transaction について2 は小文字.
- 3 \*英文誌の場合,著者は Family name を記載, First
   4 name はイニシャルのみ. 3名以上の場合は2名
   5 まで記載し, et al 表記にすること. First name と
   6 middle name の略記の間はスペースを空けない.
  - \*doi コードが提供されている場合は付記することを推奨(必須ではない)

10 < Proceedings・講演集の場合>

7

8

9

24

28

34

39

- 11 5) 青木和夫:日本人間工学会の歴史と現状,人間 12 工学,50(suppl),8-9,2014
- 13 6) Ebara T, Yoshitake R, et al: Impact of Ergonomics good practices database as public relations tools,
   15 Proceedings of 17th World congress on Ergonomics,
   16 EP0100:1-6 on CD-ROM, Beijing, China, 2009
- 17 18 \*CD-ROM などの電子媒体の場合,ページ番号は 19 任意
- 20 21 <書籍の場合>
- 22 7) 日本人間工学会: ユニバーサルデザイン実践ガ23 イドライン, 15-18, 共立出版, 東京, 2003
- 25 <書籍(分担執筆)の場合>
- 26 8) 斉藤進: 21 世紀の人間工学, 大島正光監修, 人27 間工学の百科事典, 44-46, 丸善, 東京, 2005
- 29 <オンライン上の電子資料の場合>
- 30 9) 日本人間工学会テレワークガイド委員会: 2010 31 年版ノートパソコン利用の人間工学ガイドライ 32 ン, Retrieved October 19, 2012, available from http://www.ergonomics.jp/product/guideline.html
- 35 <オンライン上のコンテンツの場合>
- 36 10) 日本人間工学会:人間工学とは一人間工学の定 37 義, Retrieved January 10, 2014, available from http://www.ergonomics.jp/outline.html
- 40 <ISO/JIS などの規格文書の場合>
- 41 11) ISO 9241-210:2010 Ergonomics of human-system 42 interaction -- Part 210: Human-centred design for 43 interactive systems, Geneva, 2010

#### ---(以下は採択決定後,提出)---

- ・論文末尾に筆頭著者(筆頭著者が連絡著者でない 場合は筆頭著者および連絡著者)の著者情報を記 載する. その他の連名者の著者情報の記載は任意 とする.
- ・連絡著者の著者情報には連絡先 (e-mail アドレス) を必ず記載する.
- ・写真の掲載は任意である
- ・掲載料は投稿規程の別表に記載されている. 著者 情報部分もページ数にカウントされる.

#### 著者情報

顔写真(任意) 30mm×40mm

# 人間工学花子(にんげんこうがくはなこ)

19○○年人間工学大学人間工学学部卒. 博士(工学).○○株式会社の勤務を経て,20○○年より人間工学大学人間工学学部助教.専門領域:ヒューマンインタフェース設計,HCDほか.日本人間工学会会員ほか.

連絡先: 〇〇〇@ergonomics.jp

#### 赤坂太郎(あかさかたろう)

顔写真(任意) 30mm×40mm

プロフィールを記載します(100 字以内). 経歴 (学歴・職歴) および専門領域および所属学会などを記載.

#### 【段組設定の方法 Microsoft WORD2013 の場合】

段組設定を表示させたい文字列を選択後,[ページレイアウト]タブ内の[行番号]にて[ページごとに振り直し(R)]設定をチェックすれば段落版行が表示される.解除(非表示)するにはチェックを外せば良い.下図参照.

